

シンポジウム1：水道分野における国際協力……………中之園賢司会員

開発途上国の約12億人が安全な飲料水を利用できず、約30億人以上が適切な衛生施設のない状態におかれている。この国々では栄養水準の低さも併い水の原因による水系感染症及びこれに関連する疾病等で毎年500万人が死亡している。

国連は「国際飲料水の供給と衛生の10ヵ年」として、世界的な規模で清浄な飲料水の供給と衛生処理の普及拡大を図ってきた。

「アジェンダ21」では、①水資源と環境の保護・健康の確保。②女性の参加。③地方機関の強化とコミュニティそれぞれ自体での維持管理への参画。④適正技術の適用と適切な維持管理。が出来るよう指導する目標が盛り込まれた。

日本政府は、国際協力機構（JICA）又は国際協力銀行（JBIC）などを通じて水供給施設の整備、水道技術訓練センターの建設、人材育成や組織体制整備のための専門家派遣、研修生の受入事業等を行っている。

一方、横浜市水道局は、1982年にタイ国、1983年にケニア共和国に専門家を派遣してから、2002年度末で80名以上の職員が長期・短期・調査団等で派遣されている。JICAおよび水道局独自事業として東南アジア諸国の水道事業者から毎年8名程度の研修生を受け入れてきている。この目的は、「国際貢献」・「人材育成」および横浜市政策としての平和な世界の実現に向けた活動を推進することである。

2003年度からはJICAの草の根援助、自治体国際化協会（CLEA）の資金により研修生受入を実施してきている。

今後は、水道事業者が民営化へシフトしていく中で水道システム全体についてのマスタープラン作成・施設整備・維持管理・それらに必要な技術者の養成・訓練等について一体的な支援が出来ることが大切である。



シンポジウム2：金属加工分野の技術協力……………菊池正夫会員

金属成型加工には鋳造、鍛造、板金プレス加工、粉末焼結、溶接などの加工法があり、それぞれの加工法の特徴と代表的な製品例などについて説明した後、プレゼンテーションを行った。

1. 素形材センターの海外協力事業

近年、機械産業の発展の基盤となる素形材産業の技術向上を図ることを目的とした技術協力への要請が高まっている。素形材センターではJICAの要請を受け、国内支援委員会を設置すると共に、専門家の相手国への派遣、相手国の技術者を日本に受入れて行う研修など、広範な支援活動を行っている。JICAのプロジェクト方式技術協力事業は過去3年以内に終了したもの3件、現在実施中のもの3件で、対象国はインドネシア、タイ、パキスタン、フィリピン、ブラジルなどであり、技術分野は鋳造技術3件、主にプラスチックの射出成型を対象とした金型技術3件である。

2. メキシコ、サンルイスポトシ自治大学技術センターにおける鋳造技術向上ミニプロジェクト

鋳造分野の中小企業の技術向上を支援する技術センターを設立するために、1998年6月から3年間に亘って行われたミニプロジェクトの実施状況をカラー写真による説明を主体に紹介した。

鋳造プロセスにおける品質管理試験に必要な、設備・機器および治具・型100点以上を導入、設置した第一級の試験センターを立上げ、日本から延6名の短期専門家を派遣すると共に現地のカウンターパート6名を日本に派遣して技術スタッフの養成に努め、工場現場での技術指導や研修講座のインストラクターの実習などを行って技術スタッフの育成に努力した結果、企業から受託した各種品質管理試験が可能となったが、企業に対する技術指導力は十分なレベルに達したとは言えず、プロジェクト終了後もシニア海外ボランティアなどを派遣して、フォローアップを継続している。

3. 技術協力の今後の課題

緒方理事長がJICAの独立法人化に際して挙げられた4つの柱の中で、我々の活動にとって最も重要と思われる「成果の重視と効率性の見直し」、「地方自治体、NGO、大学関係者との協力（市民参加の推進）」などを念頭に私が現地で体験した課題と対応策についても提言したいと考えていたが時間の制約もあり、次の機会に譲ることにした。



●菊池専門家メキシコプロジェクトでの一場面



シンポジウム一般参加者からの声



今回、私達はJECKのホームページでシンポジウムのことを運良く知りました。当初、JICAの関係者でも神奈川県民でもない私達は参加することに少し躊躇していましたが、帰国専門家方の生の声を聞けるチャンスはめったに無いので問い合わせたところ、担当者の谷保さんに暖かい声で「大歓迎ですよ！」と快く了解していただきました。お陰で妻と2人で今回は貴重なお話を聞く機会を得ることができ、とても嬉しく思っています。

当日、シンポジウムでの中之園先生、菊池先生、建野先生の体験を通してのお話はすばらしく魅力的なものでした。国際協力分野での仕事経験がない者にとって、他国で仕事を遂行していく「大変さ」と「楽しさ」が理解でき非常に勉強になりました。また、専門分野を越えた横断的な交流として、活発な質疑応答が行われていました。近い将来、国際都市横浜が日本の国際貢献活動の中心になるような気がいたしました。

最後に、今回のシンポジウムは他国で苦勞をなさりながら世界と日本の人々の平和で豊かな暮らしの実現のため日々奮闘されている「立派な鬚」をたくわえられた先生方に尊敬の念と憧れを抱いた有意義な1日でした。

埼玉県さいたま市在住 有限会社ヒガスポーツ 代表 東原 佑介
埼玉県立大学非常勤助手 助産師 東原亜希子